

平成29年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業  
(発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)

成果報告書

実施機関名 (滋賀県教育委員会)

1. テーマ

発達障害の特性に応じた専門的な指導、支援を行うための教科教育スーパーバイザー（本県での名称は「発達障害支援アドバイザー」。以下「アドバイザー」と表記）を配置することにより、障害の状態や特性を把握と、つまずきに合わせた指導・支援の充実を図る。発達障害の可能性のある児童生徒の多くは、通常の学級に在籍していることから、通常の学級における教科指導において、つまずくポイントを明らかにし、効果的な教科指導の在り方について研究を行う。(国語科・算数科)

2. 問題意識・提案背景

(1) 県全体

本県では、小・中学校の通常の学級において、発達障害等により特別な教育的支援を受ける必要がある児童生徒の割合が平成29年度には約12%と、全国平均の6.5%を大きく上回る状況となっており、発達障害の特性を的確に理解し、その児童生徒に対する専門性の高い指導、支援を行うことが急務となっている。同時に、発達障害のある児童生徒が、地域で育ち、地域で生きるためには、学校とともに、保護者や関係機関が緊密な連携を図り、個別の教育支援計画の作成や活用などによって、早期からの切れ目のない一貫した指導、支援を進めていくことが重要な課題となっている。

そのため、平成29年度は、文部科学省の委託事業「発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業」及び「通級による指導担当教員等専門性充実事業」を受託し、効果的な教科指導や通級による指導の充実などに取り組むとともに、この2つの事業を連結させることにより、小学校から中学校、さらには高等学校への切れ目のない支援の確立をめざしている。

(2) モデル地域

今回、モデル地域として選定した2市町については、平成28年度「発達障害早期支援研究事業」に取り組んだ実績がある。そこで、この成果をさらに積み上げ、より一層充実した研究を進めるために、「発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業」に取り組み、発達障害に関する教職員の専門性向上を図りたいと考えている。

また、両市町教育委員会と市町の発達障害者支援センター（支援室）とが、これまでから緊密な連携を図り、発達障害のある子供への指導、支援について取組を進めてきた地域であり、本研究において、実践事例を集約できるものと考えた。

### 3. 目的・目標

#### ア 指定校における研究教科指導の充実・研究成果の発信

- ・モデル地域における発達障害指導の核となる指定校へ、特に学習障害の特性に応じた専門的な指導、支援を行うためのアドバイザーを配置し、専門的な観点から指導・助言を得ることで、教科（小学校国語科・算数科）におけるつまづくポイントを整理し、効果的な指導・支援について研究を行う。
- ・教科指導法研究事業運営協議会を開催し、モデル地域内の取組内容について成果や課題を整理する。学習上のつまづくポイントに対する効果的な指導方法や通常の学級の授業における具体的な指導方法も研究する。
- ・教科の学習上のつまづきに対して有効と思われる指導方法について、研究成果を県内へ発信することで、本県全体の発達障害のある子供への指導、支援の強化、特別支援教育の推進につなげる。

#### イ モデル地域内の専門性向上

- ・助言・指導の必要性が生じた学校・園にアドバイザーを派遣し、発達障害の可能性のある児童生徒の対応等について、アドバイザーから指定校での知見を生かした専門的な指導・支援についての助言を行い、モデル地域内の専門性の向上を図る。
- ・「ユニバーサルデザインによる授業の工夫」「教科の学習上のつまづきから困難さを示す児童生徒への対応」等について指導・助言を得ることで、教員の授業力向上や発達障害に対する理解促進、専門性の向上を図り、さらに事例を蓄積する。
- ・研修会等で、アドバイザーが講義を行い、発達障害についての理解を促進すると共に、教科の学習上のつまづきから困難さを示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方等の専門性を高める機会とする。

### 4. 主な成果

#### ア 教科指導における学級担任の変容

- ・通常の学級における一斉指導において、学級担任は、アドバイザーの助言をもとに発達障害の可能性のある児童に焦点を当て、そのつまづきを理解しようとする中で、他の児童においても同じようなつまづきで学習の定着がうまくいかず困難さを表している様子が把握できるようになってきた。
- ・対象児童の理解を促すことを視野に入れ作成したワークシートや板書の工夫をすることで、他の児童の学習理解の向上にもつながることが実感できた。
- ・上記のような学級担任の視点の変化が生まれたことにより、意図を明確に持って、机間指導やことばかけ、指名を行うなどした結果、学級全体の授業に対する意欲の向上につながってきた。

#### イ 学校全体の教科指導力の向上

- ・アドバイザーによる助言を基にした教育実践は、他の教員の実践モデルとなった。支援方法や指導方法を共有することで、同様のつまづきのある子供への対応に生かせるようになってきた。

### 【国語科における成果】

#### ★読み書きの習得に困難さのある児童への早期支援の実施

- ・両モデル地域では、文字学習の入門期における習得のつまずきへの早期支援をめざし、ひらがなの単語聴写テストやチェックシート等を活用し学級全員の習得状況を把握することができた。そして、ひらがなの特殊音節表記など国語科における教科指導を工夫したり、通級指導教室等の関係機関と連携し、個への指導・支援につなげたりすることができた。

### 【算数科における成果】

#### ★確かな理解へ導く授業の展開（課題設定の工夫・思考を促す教材・教具の活用）

- ・課題設定を工夫することで、「考えたい」「やってみたい」という思いが自然と生まれ、学習活動に意欲的に参加できた。
- ・具体物の操作活動や教具・発表用のホワイトボードの活用、体験的活動の導入など、学習活動を工夫したことで、意欲と理解を高めることができた。
- ・学習活動のゴールを明確にすることで、見通しをもって友だちの考えを聞いたり自分で考えたりすることができた。

#### ウ モデル地域内の専門性の向上

- ・アドバイザーによる事例報告や助言を生かし、発達障害の可能性のある児童生徒への対応や一斉授業の工夫に実践的、意欲的に取り組み、モデル地域内の専門性の向上につながった。

## 5. 取組内容

- ・教科指導法研究事業運営協議会の設置状況、今年度の活動内容

実施時期	実施内容
平成 29 年 4 月	教科教育スーパーバイザーを決定し派遣開始（各モデル地域にて）
平成 29 年 5 月より	モデル地域連絡会議開催（原則 毎月開催）
平成 29 年 5 月	第 1 回研究事業運営協議会開催（各モデル地域にて）
平成 29 年 8 月	第 2 回研究事業運営協議会開催（中間報告）
平成 29 年 2 月	第 3 回研究事業運営協議会開催（実践のまとめ）
平成 30 年 2 月	東近江市内小学校特別支援教育コーディネーター連絡協議会（研究成果の普及）
平成 30 年 2 月	竜王町幼小中特別支援教育コーディネーター会（研究成果の普及）
平成 30 年 3 月	市町特別支援教育担当者協議会（実践発表）
平成 30 年 3 月	滋賀大学教育学部・滋賀県教育委員会インクルーシブ教育専門委員会（実践発表）

・教科教育スーパーバイザーの配置状況、活動内容

【教科教育スーパーバイザー（発達障害支援アドバイザー）について】

- ・ 2つのモデル地域それぞれにアドバイザーを派遣
- ・ 1地域に、週4日、年間35週程度の派遣
- ・ 言語聴覚士、臨床発達心理士、特別支援教育の専門性の高い小学校長OB等

【おもな活動】

- ①支援を必要としている児童生徒の教科学習におけるつまずきの見立て
- ②授業における指導方法の改善・工夫につながる助言
- ③個に即した指導・支援に対する助言
- ④モデル地域における特別支援教育推進に関する助言（研修会の講師）

① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

【指定校における実践】

★1. 教科名 算数科

★2. 対象とした学校、学年 竜王町立竜王小学校 3年

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・ 整数と小数の違いが分かっていないため、数量を考える際のイメージが持てず、考え方が分からない。
- ・ 数量の関係を表す式など、学習したことの定着が難しい。
- ・ 集中が途切れやすく、不注意による間違いをするため文章問題が苦手である。

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

① 実態把握の時期：6月、7月、9月

② 実態把握の方法（実施者・方法）：以下の3つで実態把握に努めた。

- (1) 臨床心理士・アドバイザー・通級指導担当による該当学級の授業参観・ケース会議
- (2) 竜王町SSWによる発達検査の実施

<評価>全体 83

<所見>発達凸凹が大きい。「独特の捉え方・考え方」があり、標準的な子供に合わせた一斉授業では、本児にとっては「わかりにくさ」になることが多い。環境調整も含め、本児に合わせた教え方であれば年齢相応に学習を進める力を持っている。本児にとってわかりやすい活動や得意なところは、見本があればそれほど時間をかけずに取り組むことができるが、不注意のため間違いも多い。不得意なところについては複数のことを同時にすることの困難さ、短期記憶、作業記憶の弱さから取り組むことが難しい。興味・関心・考え方に偏りがあり、標準的ではない考え方をするため、多くの人の答えと違うときがよくある。見えるものに過度に注目がいき、見えると反応してしまうという特性がある。

(学習面での支援)

- ・事前の予告や枠組みを明確にすること
- ・視覚的な手がかりを活用
- ・注意喚起（不注意優勢な部分への配慮）
- ・環境調整（教室内の環境調節、座席、掲示、板書など）

(行動面での支援)

- ・枠組みの明確化（いつ、どこで、どのように行動するかを示す）
- ・励まし、賞賛（叱責されやすい行動特徴を持っているため、肯定的な注目を大事にしたかわりを意識して行う）

(3) 担任によるアセスメントのためのチェックシートより

- 「聞く」聞きもらしがある。個別の指示は聞き取れるが、集団場面では難しい。
- 「話す」思いつくままに話す。筋道を立てて話をするのが難しい。
- 「読む」文章の要点を正しく読み取ることが難しい。
- 「書く」漢字の細かい部分を書き間違える。句読点を正しく打つことは難しい。
- 「推論」早合点や飛躍した考えをすることが多い。
- 「不注意」不注意な間違いが多く、課題や活動で注意の集中・持続は難しい。
- 「その他」集中が途切れやすく、日々の活動を忘れることがある。着席時、手足等を動かすことが多い。遊びや余暇活動に穏やかに参加することが難しい。質問が終わらないうちに出し抜けて答えてしまう。

#### ★5. 実施した指導内容

① 学習上においてつまづいている内容

- ・小数の意味や表し方が理解できていない。
- ・数量の関係をイメージすることが難しい。
- ・数量の関係を表す式の理解や活用（文章問題の理解）ができない。
- ・文章問題において視覚に入った数字を順番に並べて立式してしまう。
- ・数直線を正しく読み取ることができない。

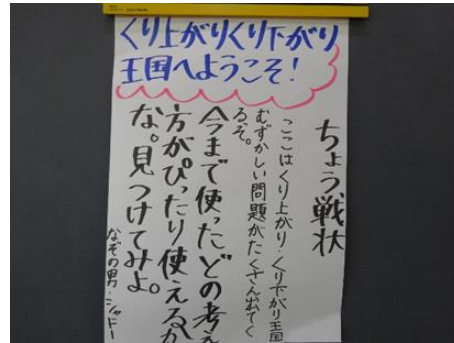
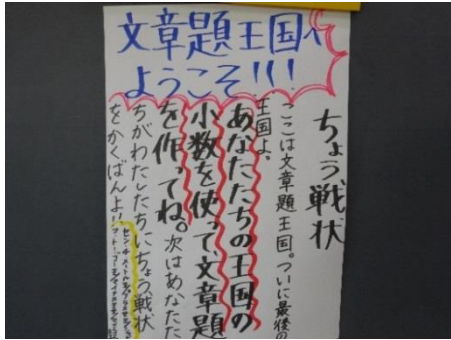
② つまづいている背景・原因

- ・聞き取る力や覚えておく力に弱さがある。
- ・自分なりの解釈をしてしまうため、課題を理解せず授業に参加してしまう。
- ・授業中に廊下や隣の教室から聞こえてくる音にすぐ反応してしまう等、興味を引かれる方に気持ちが向いてしまう。
- ・気になる方に集中してしまい、聞き漏らしや聞き間違いがある。

③ ①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

授業中における支援

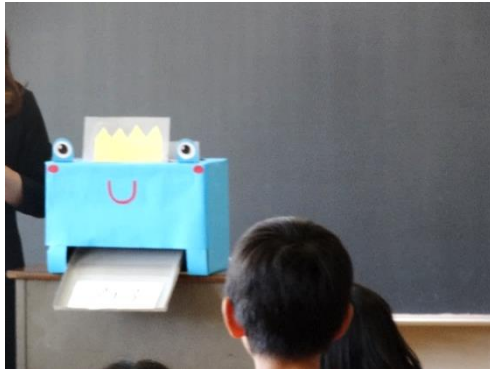
(1) 授業にストーリー性を持たせたる



☆本児の変化

導入時に少しゲーム性を加えることで、その「挑戦状」を受けて立とうという気持ちになって前向きな気持ちで授業に参加できた。

(2) 興味を引く教材の活用（手作り教材「ひっくりかえる」）



- ・小数についても整数と同様に、「10のまとまり」の考え方を活用することを確認
  - \*10をもとに考えると  $20+30 \rightarrow 10$  のまとまりで、「 $2+3$ 」
  - \*0.1をもとに考えると  $0.4+0.3 \rightarrow 0.1$  のまとまりで、「 $4+3$ 」

☆本児の変化

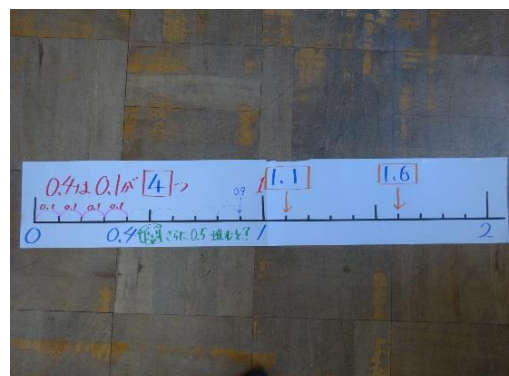
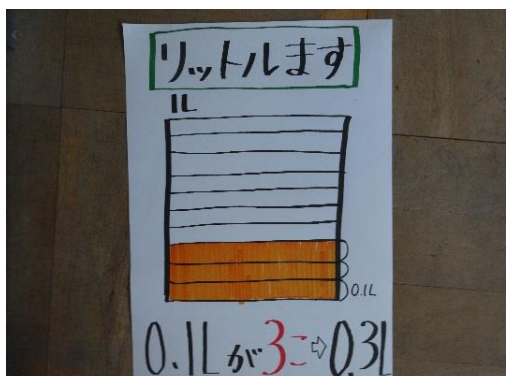
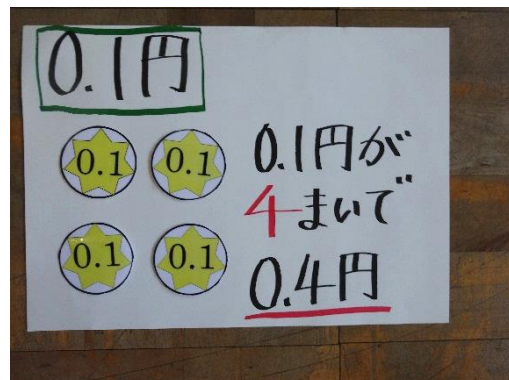
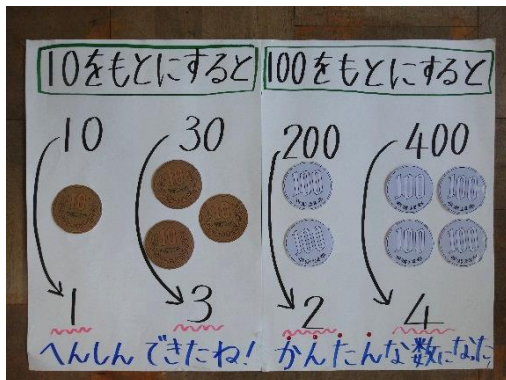
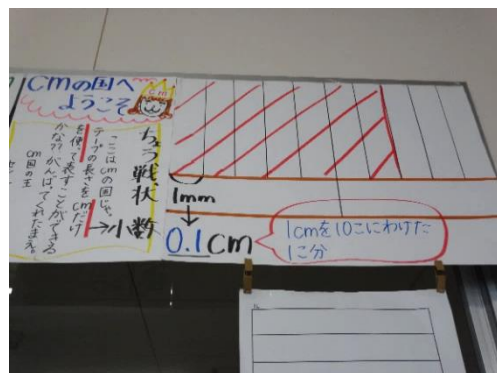
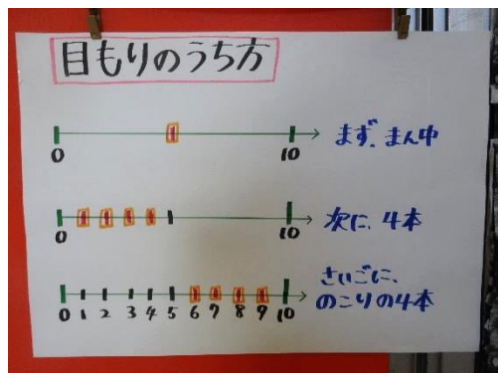
- ・カードがひっくり返って出てくる手作り教材を活用することで、小数の考え方や記憶に残る出合いができ、内容の理解を促すことができた。
- ・担任が説明をしている途中であっても机上有るものや周囲が気になったり、注意を促す指示をすることで意欲を無くしたりしていたが、視覚的に興味を引く教材が出てきたことで「前を向きましょう」という指示がなくても、瞬時に興味を持って、学習に集中することができた。

(3) 授業のはじめに1時間の流れを提示し、目標は児童に話し合っで決定させる。

☆本児の変化

- ・流れを提示することで、学習に見通しをもち、取り組めるようになった。
- ・注意の持続が途切れた場合、今展開されている学習内容の確認ができるようになった。
- ・目標をみんなで話し合い自分たちが決めることで「自分が決めた目標を達成しよう」という意欲につながり、学びの質が向上した。

(4) 前時までに活用した教材を教室に掲示するなどして、繰り返し活用する。



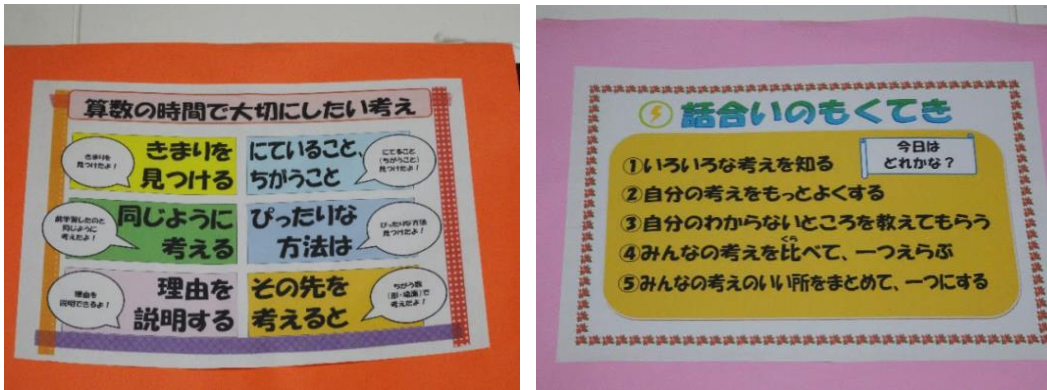
☆本児の変化

- ・説明を聞いているだけでは、理解が難しかったが、学習のポイントを視覚で認識することができ、計算の仕方も見通しをもち取り組めるようになってきた。



- ・文章問題に取り組む時にも、掲示してある絵や図をセットにして考えることで、場面の理解（イメージ）を早めることができるようになってきた。
- ・授業中に復習をする際、事前に学習をした掲示物を提示したことで、本児だけではなく、学級全体として指示された内容を理解するのに役に立った。

(5) 授業中の約束事を決め、掲示する。



☆本児の変化

発表の仕方がパターン化されていることで、「何をするか」が分かりやすく、活動に参加しやすくなった。その結果、手を挙げて発表することが増えた。

(6) 机間指導におけることばかけや取組状況に合わせたヒントカードの配付。

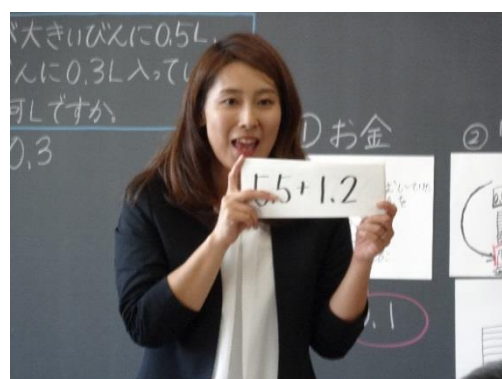
☆本児の変化

分からないところを気軽に質問できたり、ヒントカードをもらうことからやる気を持続できたりすることで、「分かった」「できた」という達成感を味わうことができた。

(7) 授業の終わりにフラッシュカードを使って本時の学習内容の理解度を確認する。

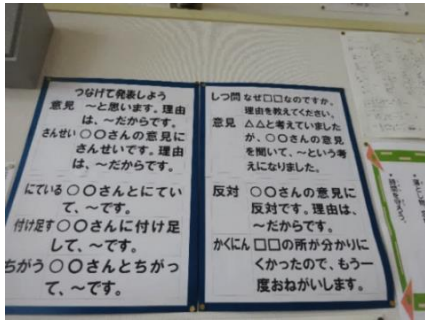
☆本児の変化

みんなとあわせて声を出し、本時の復習に役に立てていた。教科書の練習問題をノートに書いて解くのではなく、目の前で次々と入れ替わっていくカードに視点を当て、声を出すことで楽しく参加でき、集中して取り組むことができた。





(8) 本児を計画的に指名し、本児を含め全体でも褒める場面を増やす。



☆本児の様子

- ・自信を持って発表できる場面を設定することは、学習の意欲につながった。また、褒められることで、次の学習意欲の向上へとつながった。

### 個別の指導・支援 通級指導教室において週1回の指導を実施

本取組の成果に繋がると考えられる通級指導の内容

(1) 「1時間の流れ」「目標」の提示をする。

- ・目に入ったものが気になり、離席して触りに行ったり遊んだりしてしまうことが多いが、毎時間「1時間の流れ」「目標」を提示することで、やりたいことがあっても「今日の課題が終了してから」という意識が定着しつつある。

(2) きくきくドリルの活用 (聞き取り練習教材5歳 北山学園代表 村上裕成著)

- ・6月から17回の指導の中で6回使用

(3) 視覚認知トレーニング

(「教室で使えるコグトレ」 児童精神科医医学博士 宮沢幸治著)

(「漢字遊びファックス資料」 辻野十志夫著)

(「目と手を連動するチカラを鍛える・ぐるぐる迷路」 大阪医科大学LDアットスクール)

- ・6月から17回の指導の中で7回使用

(4) タブレット端末を活用

(インターネット教材から「怪盗ねこぴー」漢字の形)

- ・6月から17回の指導の中で3回使用

本児がつまづいている背景、原因から「聞く力」、「見る力」の向上に重点を置いて取り組んだ。目に入るものが気になり、話を聞きもらし、課題に取り組みへの集中が難しい本児が、関心を持ち楽しく学習できそうな教材を選んだ。

本児がやる気を見せるのは「褒めてもらった後」であることから「励ます・褒める」ことを学級担任とも連携・確認し、学級でも取り組むようにした。

「今日の課題」の一つ目が、本児なりに満足できたときは、次の課題にスムーズに入ることができ、集中できる時間も長くなった。成長を具体的に褒められることで、学習意欲が持続し課題の正答率向上にもつながった。成功体験を積み重ねは、自己肯定感の芽生えや学習意欲の向上に繋がると思われる。

④ ③の結果児童の変容

- ・流れや目標を提示することで見通しがもて「次何するの?」と聞くことが減り次の作業に入りやすくなった。
- ・算数に苦手意識はあるものの、自作教材等の活用を通して授業に楽しく参加できるようになり、集中して取り組める時間が長くなった。
- ・自作教材は教科書より注目しやすく、課題を視覚的に捉えやすい。

- ・図を活用しイメージする学習を進めてきたことで、本児も図を使って説明ができるようになった。
- ・励ましたり褒めたりを繰り返すことで、発表しようとする意欲の高まりと友達の考えを聞こうとする姿勢がみえるようになった。

⑤ 効果がある具体的な方法

- ・視覚的にイメージしやすい掲示物を利用する。
- ・文章問題は、問題文中の大切な箇所にアンダーラインを引き、数字だけではなく手がかりとなる絵や図を活用してセットで考えさせる。
- ・計画的な机間指導、声かけ、必要なヒントの提供する。
- ・こまめな振り返りと内容理解の確認する。

★6. まとめ

① 教科における学習上のつまづくポイント

- ・小数ということばを聞いただけではそのイメージを描くことができず、小数が表す意味やその表し方が理解できない。
- ・数や量の関係性をイメージしにくいいため、図等で表すことが難しい。
- ・数量の関係を表す立式ができていないと、文章問題での活用も困難となる。
- ・集中力が切れ指示の聞き洩らしがあるため、不注意な間違いをしてしまう。

② つまづくポイントにおける効果がある指導の工夫・内容

- ・前時に使用した視覚教材の活用は、小数のイメージにつながり、理解を促す。
- ・本人に適した課題（数種類に分けたヒントカードなど）の提供は、段階的な理解へとつながる。
- ・式や図を継続的に教室掲示することから学習内容を忘れてしまうのを防ぐとともに、次に使う場面において自分で見つけられるようにする。
- ・注意を引きやすい教材を使い、分かりやすい説明を心がける。
- ・計画的な机間指導でこまめに学習状況を把握し、必要な指導や支援を行う。
- ・文章問題に取り組むときは、掲示している絵や図を参考にし、それらをセットにして考えさせたいうで立式させる。

③ 事前につまづかないようにするための指導の工夫・内容

- ・教材を視覚的に提示し、何をするのか見通しをもたせる。
- ・前時までの学習内容を常時掲示し、想起・検討する手がかりとする。
- ・離席や一人遊びを防ぐための、興味や関心、学習段階に合わせた課題の準備。
- ・机間指導とことばかけの準備。

④ 通常の学級における有用な指導方策

- ・興味関心を高める視覚教材を効果的に活用する。
- ・前時までの学習内容を継続して教室掲示し、繰り返し活用する。
- ・計画的な机間指導や学びのヒントとなる効果的なことばかけを行う。
- ・学習段階や児童の必要性に合わせた数種類の課題を準備する。
- ・児童が聞き取りやすい話す速度・声のトーン・表情に気を配る。

★ 7. その他

① 本事業のために町教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等

- 4月 県特別支援教育課及び町担当指導主事による事業説明
- 5月 特別支援教育コーディネーター研修
- 6月 町SSWによる発達検査の実施
- 7月 授業参観
- 8月 竜王町教職員研修会
- 9月 授業参観
- 10月 授業参観
- 11月 研究のまとめに向けた訪問
- 12月 研究のまとめに向けた訪問
- 2月 特別支援教育コーディネーター会
- 3月 市町特別支援教育担当者協議会

② 本事業の月別の実施主な実施内容

- 5月 アドバイザーによる授業参観、対象児童の検討
- 6月 対象児童の決定・授業参観・通級指導教室担当者との打合せ  
町SSWによる発達検査の実施  
担任によるアセスメントチェックシートの実施
- 7月 発達検査及びアセスメントチェックシートの結果分析  
関係者による授業参観とケース会議
- 9月 関係者による授業参観及び研究会
- 10月 関係者による授業参観及び研究会
- 11月 研究のまとめ
- 1月 校内における研究成果の発表
- 2月 特別支援教育コーディネーター会にて研究成果の普及

★1. 教科名 国語

★2. 対象とした学校：東近江市立箕作小学校（モデル地域内の小学校） 第1学年

★3. 対象とした児童生徒のつまずきの状況

- ・ 構音の誤りがあり、発音が不明瞭。（例「せんせい」→「ちえんちえい」）
- ・ 特殊音節の表記（読み書き）が未習得
- ・ 文字の形がうまくとれない。

★4. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

①実態把握の時期：4～7月

②実態把握の方法：学級担任及び特別支援教育コーディネーター、アドバイザー

【学級担任、特別支援教育コーディネーターによる把握】

- ・ 発音の状態把握：入学当初すぐに、会話のやり取りの中で
- ・ 文字形態：ひらがなの学習が進み、ノート等の文字を確認する中で
- ・ 7月実施の「東近江市ひらがな（単語）聴写テスト（詳細は参考資料）」の結果から



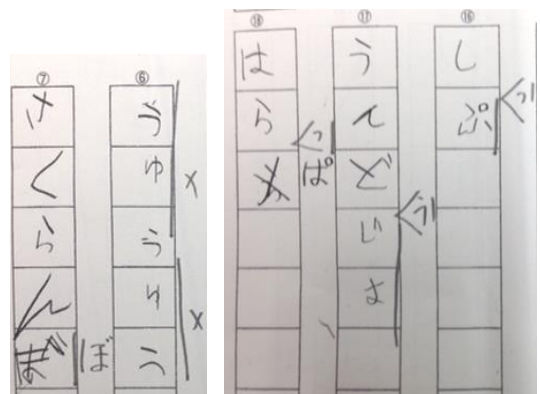
【アドバイザーによる把握】

- ・ 学校における学習状況（得意不得意）の聞き取り
- ・ 発音チェックテスト（構音の誤りをチェック）  
（参照：ことばのテストえほん新訂版言語障害児選別検査 田口恒夫・小川口宏著 日本文化科学社）
- ・ 「ひらがな（単語）聴写テスト」の再実施
- ・ ことば集め、しりとり、会話等から、語彙・音韻操作等ことばの獲得状況を確認
- ・ 見る力（視知覚）のチェック

5. 実施した指導内容

①学習上のつまずき（読み書き）

- ・ 発音の誤りがあり、話し言葉のまま表記している。  
（つくる→すくる うんどうじょう→うんちょうちよ など）
- ・ 鏡文字になる。
- ・ ひらがなは、音読はできるが、表記は、斜めの線が縦線になり、形がうまく取れない。
- ・ 拗音、促音、長音の習得が不十分である。
- ・ 漢字の書き順が自己流になる。  
字というより図形として捉えて写している様子。
- ・ 間違いが増えるとやる気をなくしてしまう。
- ・ 正しい漢字と見比べても、間違いに気付かず、修正は難しい。



## ②つまずきの背景・原因の推測

- ・音韻意識の弱さから、長音、促音の習得に影響している。
- ・発音の誤りが、書字の誤りにつながっている。
- ・眼球運動が十分でなく、未熟である。
- ・集中力に弱さがある。
- ・見る力、聞く力に弱さがある。

## ③①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

### 【該当児への個別の指導】

- ・遊びの中での音韻操作

じゃんけんことば遊び（じゃんけんの後、教室を1周する）

じゃんけんの後、拗音・促音・長音のある単語を言いながら、その音の数だけ進む。

（例）促音バージョン：「グーは、ぐっすり」「パーは、ぱっちり」、

「チョキは、ちょっさり」と言いながら、床のマス目を進む。

### 【学年での取組】

#### ○授業の始めやスキルタイムに

- ・朝のスキルタイム（8：20～8：35）や授業の前など、機会を捉えて実施  
\*体を動かす活動から学習活動をスタートすることで集中力を高めることができる。

#### A：視空間認知と目と体の協応の力をつける活動

（参照：発達の気になる子の学習・運動が楽しくなるビジョントレーニング：北出勝也監修 ナツメ社）

- ・矢印体操・・・メトロノーム等で一定のリズムに合わせて  
教員が指す矢印の方向に腕全体で「上」「下」と声を出しながら指を指す。
- ・まねっこ体操：矢印体操と同様に、体の動きをまねる。
- ・足の動き体操：矢印体操と同様に、足の置き方をまねる。



矢印体操



まねっこ体操



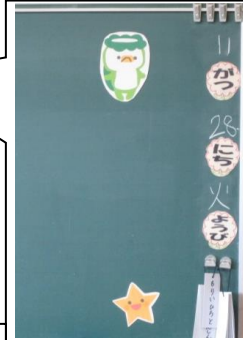
足の動き体操

#### B：眼球を動かす活動

- ・目だけ動かして黒板の絵（目を動かすポイント）を見る運動
- ・もしかめ運動  
童謡「うさぎとかめ」の歌を歌いながら、左右、上下、斜め、前後と眼球を動かす。



先生と一緒に「もしかめ運動」  
↓  
黒板の絵を見て目だけを動かして見る



眼球運動トレーニング時  
黒板に貼る「絵」

○授業の始めや、スキルタイムにA、Bの活動とセットで

C：聞く力・見る力をつける活動

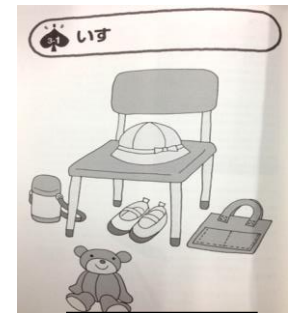
・聞くドリル：

右のプリントであれば、「いすの上に帽子があります」など  
教員の話をよく聞いて絵に○をする。

(参照：ワーキングメモリーとコミュニケーションの基礎を育てる聞き取りワークシート  
NPO フォー LD 発達相談センターかながわ編著 かもがわ出版)

・見るドリル

間違い探しや点つなぎ、同じ形を見つける等のプリント



聞くドリル

D：音韻を意識する活動

(参照：通常の学級でやさしい学び支援1巻 読み書きが苦手な子供への〈基礎〉トレーニングワーク  
竹田契一監修 村井敏宏・中尾和人著 明治図書)

・右のプリントでは、絵の音の数だけ色を塗る。

・「か」がつくことばに○をつける。

(文字の「読みと字形」の一致)

・中休みのチャレンジタイムに

じゃんけんことば遊びの要素を取り入れ、  
架空の一本線を進む「どんじゃんけん」で、  
ボディイメージを鍛えるとともに、音韻を意識する  
取組を実施。



言葉の音だけ色を塗る

○授業で

漢字学習：「気をつけて見る」ことから「字形を整え、正しく書く」能力の育成

【学習の流れ】(1時間に2つの漢字を学習)

・A4のクリアファイルに大きくマス目を印刷した紙を入れ、ホワイトボードマーカーで大きく2回、漢字を書く。

\*大きく書くことで、間違いが見えやすく、気づきやすい。

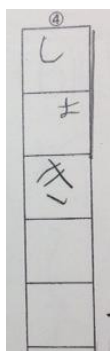
\*ホワイトボードマーカーは鉛筆より書きやすく、すぐ消せるので安心して取り組むことができる。



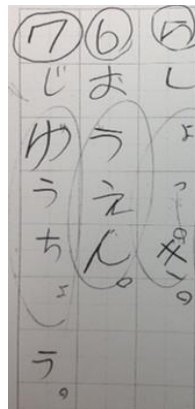
- ・再度、クリアファイルに丁寧に書き、頭上にあげてみんなで見合う。  
 (「展覧会」と命名 → インパクトのある呼び方は、意欲の向上につながる。)  
 ＊みんなに見てもらおうことが動機付けとなり、手本をよく見て丁寧に書く。  
 ＊頭上に挙げている作品で、書字の誤りのある児童をチェックする。
- ・漢字ドリルに4回書く。  
 ＊この時間に、展覧会で字の誤りをしている児童へ、机間巡視で指導をする。  
 新出漢字はその時間中に正確に習得できるようにする。
- ・ミニテストで最終確認をする。

#### ④③の結果（児童生徒の変容を含む）

- ・上記の取組をすることで、授業の始まりがスムーズになり、学習の構えが作りやすく意欲的に授業に参加できた。
- ・上記の取組は、遊び感覚で楽しみながら学習の土台を作る活動となった。文字の読み書きにつまずいていた子供たちも「できる」という思いがうまれ、意欲的に取り組むようになってきた。苦手な斜めの線を何度も書き直すなど、粘り強く取り組めるようにもなっている。
- ・本児は、書くスピードも速くなり、字のバランスも取れるようになってきており、少しずつではあるが、成果が現れ始めている。
- ・授業中、落ち着きがなく、すぐに話し始めるなど、気の散りやすかった児童が、学習に参加できるようになった。また、その効果は、国語だけでなく計算の間違いも減少してきている。
- ・学年全体で取り組むことで、他の児童も意欲的に学習に取り組め、できなかったことができるようになり、自信をつけている。
- ・漢字の学習の中で、自分で間違いに気づき、他の児童の書字と見比べることで、「見る」「比べる」「気づく」力が付いてきている。



7月実施の「ひらがな  
 (単語) 聴写テスト」  
 促音が書けていない。



#### 12月実施の聴写

- ・7月に促音が抜けていた「しよつき」一度「しよき」と書いて右下に読点を打ったが、「しよつき」と書き直している。
- ・拗音や促音も正しく書けている。

#### ⑤効果がある具体的な指導方法

- ・低学年であれば、体を動かしたり声を出したり動きのある活動を取り入れて、体全体で学ぶ内容も取り入れること。
- ・児童が楽しく取り組めるよう、教員が意図的・計画的な授業づくりをすることが重要。
- ・できなくても気楽に取り組めるような雰囲気づくりと、「やってみよう」と思えるような教材提示の仕方や学習内容の工夫。

## ★6. まとめ

### ①教科における学習上のつまづくポイント

- ・字のバランスが整いにくい。
- ・正しい音の認識ができていない（聞き間違い、間違ったまま表記してしまう）。
- ・大まかな字の形はつかんでいるが、一画足りないなど字の書き誤りをしてしまう。
- ・画数が増加すると、誤数も増加する。そして、学習意欲をなくしてしまう。

### ②つまづくポイントにおける効果がある指導方法・内容

- ・漢字を大きく書いて、間違いを自分で気づき修正できる力をつける。
- ・はじめは「まねっこ体操」に参加しなかった児童が、遊び感覚で楽しく取り組めるとわかると、少しずつ参加し自信をつけた。このように「これならできる」と思える教材の提示の仕方や学習内容の工夫は有効。

### ③事前につまづかないようにするための指導の工夫・内容

- ・眼球運動トレーニングで見る力を鍛える。
- ・低学年であれば、矢印体操等で視空間認知力や体幹を整えたり、じゃんけんことば遊びで音韻意識が高められたりする活動を意識的に取り入れるとともに、見るスキルや聞くスキルによって、「よく見る力」「聞く力」を育成するなど、文字学習の基礎となる力をつけていく。

### ④通常の学級の授業における有用な指導方策

- ・一番は楽しく取り組める工夫をすることである。同じ練習でも、リズム等、少し変化を加えることで児童の集中が持続する。
- ・五感だけでなく、体全体を使ってできるような取組を取り入れる。
- ・「書く」学習においても、マーカーで書く、鉛筆で書く、テストとして書く等、書く活動にバリエーションを取り入れることは、同じことを何度も書くことより、変化をつけて注意して書くことが重要と思われる。
- ・漢字学習のような継続的に実施する学習は、学習の流れをパターン化し、見通しをもって安心して取り組めるようにする。新出漢字は、練習時間に書き誤りをチェックし、正確な習得を目指す。
- ・「自分の間違いに気づく」「友だちと比べる」活動を取り入れることで、主体的な学習の基礎となる力の育成につながる。
- ・当該の児童だけではなく、学級の全員が同様に取り組みながら目立たずつまづきを克服できる学習活動は重要である。

## 参考資料

東近江市教育委員会 読み書き課題早期対応事業「ひらがな（単語）聴写テスト」の取組

- ・対象：市内全 22 小学校 1, 2 年生
- ・時期：年 2 回（1, 2 学期末）
- ・内容：ひらがな（単語）20 問テスト…通級指導部会で作成、実施所要時間：10～15 分間
- ・間違いの傾向…昨年度の総括から

間違いワースト 5

- 「しゅっぱつ」 → 「しゅぱつ」 … 1, 2 年生
- 「ちよっと」 → 「ちよと」 … 1 年生
- 「しよっき」 → 「しよき」 … 1 年生
- 「うんどうじょう」 → 「うんどうじょ」 … 1 年生
- 「ぎゅうにゅう」 → 「ぎゅうにゅ」 … 2 年生

- ・聞いて書くために必要な力

聴く力：言葉を聞き分けられる【音韻認識】

見る力：その文字が読める【形（空間）の認知…眼球運動、視覚認知】

動かす力：筆先の動きを見ながら調整できる：運筆、筆圧【目と手の協応】

覚える力：一時的に聞いた記憶を保持：【短期記憶（ワーキングメモリ）】

- ・必要な力を伸ばす取組

活動場面

朝学習タイム、国語の授業最初 3～5 分や授業中（ノート指導時）、帰りの会、宿題等

教材（例）

音韻認識を育てる

- ・発する言葉の音に合わせて手をたたく・しりとり
- ・聴写トレーニング・聴く聞くドリル・さかさ言葉

空間認知・時間感覚を育てる

- ・矢印体操・視写・早口言葉

語彙を増やす

- ・言葉集め・小さい「っ」集め・反対ことば絵カード

話し言葉に注意を払って集中して聴く

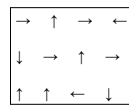
- ・伝言ゲーム

活動場面（例）

### 伝言ゲーム 楽しみながら…感覚・運動面へ



〔背中に書かれた文字を前の人の背に再現〕



### 動作化の授業場面（1）

～ 矢じるし体操 ～



〔一定のリズム(メトロノーム)に合わせて先生の指す矢印に、両手と声で応える〕

- ① とまと
- ② こっぶ
- ③ じゃがいも
- ④ ぎょうざ

### 動作化の授業場面（2）

音韻意識～清音、特殊音節「っ、や、ゆ、よ」など～



〔正音…両手叩き、拗音…手を合わせねじる、促音…グー、長音…手を合わせ下へ〕

★7. その他

- ① 本事業のために市教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等
  - ・市担当の学校訪問
  - 事業説明
  - アドバイザーと学校長及び特別支援教育コーディネーターとの顔合わせ
  - アドバイザーに随行
  - 事業の進捗状況の確認及び今後の計画等について打合せ
  - ・研修
    - ・幼小中合同コーディネーター会議にてアドバイザーによる研修
    - ・アドバイザー派遣校にて校内研修の実施及び研究授業への助言
    - ・小中特別支援教育コーディネーター連絡協議会にて指定校の研究成果を共有する場の設定
  
- ② 本事業の月別の実施主な実施内容
  - 5月：指定校へ本事業の趣旨説明
  - 6月：指定校以外のアドバイザー定期的配置校の募集決定
  - アドバイザーの派遣開始
  - 指定校：アドバイザーとの顔合わせ・今後の計画について打合せ
  - 幼小中合同コーディネーター会議にてアドバイザーによる研修
  - 8月：アドバイザーによる校内研修
  - 10月：校内研究授業等へのアドバイザーによる助言
  - 1月：小中特別支援教育コーディネーター連絡協議会にて指定校の研究成果を発表し、市内に広げる。
  - 2月：【指定校】校内研究会
  - 研究成果についてアドバイザーによる指導・助言
  - 3月：【指定校】校内研究会
  - 研究成果を生かす次年度の研究の方向性について協議

## 6. 今後の課題と対応

- ・支援が必要な子供への有効な指導や支援を実践することを念頭に置きながら、学習内容や流れを工夫することで、児童も授業の見通しがもち、学習のゴールをイメージしながら意欲的に取り組めることがわかってきた。このことから、教員は意識して1時間の授業の構成を工夫するようになってきている。どの子ども「わかった」「できるようになった」という思いを積み重ねられるような授業づくりができるよう、教員の資質を高める必要がある。
- ・体験や実感を伴う活動等や課題設定の工夫により、意欲を高め学習の見通しをもって取り組めることがわかってきたが、学習のつまずきが改善されない場合は、学級担任以外の視点を入れながらのアセスメントが必要である。アドバイザーの助言で授業に取り入れた眼球運動トレーニングの継続で見える指導効果が得られたケースから、適切なアセスメントの重要性と効果が実感できた。アドバイザーや通級指導担当等関係機関との連携から専門的な知見を得て、教科指導に生かす視点を今後も研究していきたい。
- ・発達障害の可能性のある児童は、学習におけるつまずきのポイントが多岐にわたり、個別の支援の手立てもそれぞれ異なることが多い。本事業の取組を通して、そういった支援を必要とする児童の姿が見えるようになった教員は増えてはいるものの、個々の特性に必要な対応が十分にできる状態には至っていない。個々の教員がそれぞれに適切な指導や対応をしていくためには、さらなる時間と継続的な取組が必要である。本事業において取り組んだ指導案やワークシート、板書計画、指導の流れを次年度以降も引き続いて研究し、発達障害の特性を持つ児童を含めた通常の学級における授業力を高めていく必要がある。
- ・丁寧な支援を行うことは大切であり、その必要性和有用さは理解しているものの、1時間単位における授業の進度や深まりを維持しつつそれらの支援を行うことには難しさも感じられる。幅広く、深い学習を望む児童のニーズと発達障害の特性を持つ児童のニーズを両立させるためにはさらなる研究が必要だと思われる。
- ・指定校やモデル地域内の取組内容について成果や課題を整理し、学習上のつまずくポイントに対する効果的な指導方法や通常の学級における授業における具体的な指導方法を引き続き追究していきたい。併せて、モデル地域における研究内容を県内に発信することにより、発達障害のある子供への指導、支援を強化し、本県全体の特別支援教育の推進につながるよう工夫していきたい。

## 7. 指定校について

指定校名：東近江市立御園小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	77	3	58	2	67	2	67	2	92	3	82	3
特別支援学級	5		0		6		6		5		1	
通級による指導 (対象者数)	1		3		3		1		3		0	
	校長	副校長 ・教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	1	1	21	1		3	1	3			33

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害、自閉症・情緒障害

※通級による指導の対象としている障害種：自閉症・情緒障害、ADHD、LD

指定校名：東近江市立布引小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	38	2	42	2	41	2	41	2	30	1	39	2
特別支援学級	3		3				5		1		2	
通級による指導 (対象者数)					1		1					
	校長	副校長 ・教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	1		16	1		3	1	3	1	8	35

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害、自閉症・情緒障害、肢体不自由

※通級による指導の対象としている障害種：自閉症・情緒障害

指定校名：竜王町立竜王小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	60	2	62	2	66	2	71	3	59	2	74	3
特別支援学級	3		3		2		2		8		5	
通級による指導 (対象者数)	1		4		4		2		4		3	
	校長	副校長 ・教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	1		22	1		4	1	2			32

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障害、自閉症・情緒障害、身体虚弱、肢体不自由

※通級による指導の対象としている障害種：言語障害、発達障害

## 8. 問い合わせ先

組織名：滋賀県教育委員会

- (1) 担当部署                    滋賀県教育委員会事務局特別支援教育課
- (2) 所在地                    滋賀県大津市京町4丁目1番1号
- (3) 電話番号                 077-528-4641
- (4) FAX 番号                077-528-4957
- (5) メールアドレス        tokushi@pref.shiga.lg.jp